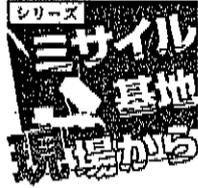


# 戦争準備 日常の景色

空軍の文藝に採り、軍田政務が建設する大規模。敵艦砲撃隊ミサイル配備の準備にまわっているのが、米中対立のほきまにあある「第一列島線」上の島々です。沖繩県の先鋒島、石垣宮古与那国の各島ではミサイル配備を中心とした「戦術準備の急」が展開の舞台でまわっています。艦隊の島からミサイルの島へと移動する感でいま、何が起きていゝのか、戦争と平和が交錯する島の現状を覗いてみた。(田中重三)

## 要塞化へ地ならし



4月26日、宮古島は緊張感からみえます。PAC3輸送抗艦の日の日、厚西港では午後2時30分ごろ、3時ごろ、4時ごろの射撃回、PAC3の砲撃機やレーダー装置を搭載した車両を運ぶ空自のC-2輸送機が飛来。地元住民や観光客が利用する民間道路を使ったミサイル配備に対し、「平和な宮古島を軍事利用するな」と厳しく抗議する市民の姿がみられました。飛来する自衛隊機に向かって抗議していた市民のひとり

上重野繁子氏は「いま全日空の飛行機が飛んできたでしに、なるといいます。南西諸島で海軍基地の整備がとまるといいます。日本共産党の上重野繁子氏



●宮古空港に飛来した航空自衛隊のC2輸送機から発射機とみられるPAC3を搬入●宮古空港から搬入されたPAC3発射機を搭載した車両が市内の公道を走行。火薬類を積んでいることを示す火の標識を掲示=4月26日、沖繩県宮古島市

市陣は島内を走り回る車両を免ながらこの機に乗りた軍事訓練だ」と述べ、射撃20〜30発程度のPAC3で「一掃」を遂行することほ現実はないといっています。一本はミサイルを撃たせない外努力こそ必要だ。政府は責任を放棄している。隊員400人車両130台先島防衛でのPAC3配備は宮古島に加え、陸上自衛隊の与那国駐屯地(与那国町)、向石垣駐屯地(石垣市)にも展開。地元紙の報道によると今回の指命令で沖繩県内に隊員約400人、車両約130台が入ったとみられます。3島のうち、宮古島にはと

3月、地対艦、地対空ミサイル部隊を配備。与那国島でも地対空ミサイル部隊を配備するため用地取得費が防衛費の23年度予算に計上されました。与那国町民のひとりには「一連の動きは、与那国島民がいやな感じがから出ていかざるを得ない空気を醸成する効果も狙っている」と見做しました。

(3)面(1)へ

